

図書館だより

第 5 号

1982・12・15 発行

編集兼発行 三重短期大学附属図書館 514-01 三重県津市一身田中野字蔵付157

誌 0592
32-2342

目 次

展示品解説	岩 本 勲 (1)
いま読んでいる本	山 田 全 紀 (3)
私と本	村 田 温 子 (3)
図書館 あ・ら・か・る・と (その2)	(4)
公立短期大学に望ましい予算のすがた	(5)
新規受入図書案内	(5)
ベスト・セラーズ	(10)

展 示 品 解 説

岩 本 勲 (法経科教授)

図書館に暫く展示させていただいている4つの文書は、こと新しく披露するほどの珍品というわけのものでもない。だが、どれ一つをとってみても、筆者が現代フランス政治研究の合間に訪ね回ったヨーロッパの博物館や古書市のなつかしい思い出とつながり、個人的には大切にしている品々の一部である。これらが学生の皆さんにとってヨーロッパ史に興味をもたれる一つのきっかけともなれば幸いである。

I Magna Carta

大英博物館所蔵のマグナ・カルタの原寸大写真。原文はラテン語。

大英博物館には、イギリス史に登場する政治家や文学者らの夥しい手稿が展示されている。イギリス革命期に、軍資金に窮したクロムウェルが兄弟に至急金送れと頼む手紙 (Oliver Cromwell to Oliver St. John, 1648)、チャールズ1世の議会解散状 (The dissolution of parliament 1629, Charles I

to the Earl of Newcastle, 28 Sep. 1642)、あるいは時代がずっと下って、イギリス亡命中のレーニンがヤコブ (Jacob Richter, 25, 4, 1902) と名告って大英博物館入館許可書を求める手紙等々、この手稿展示室は、興味の尽きることのないイギリス史の宝庫である。なかでも当館が誇る秘蔵品は、1215年に成立したマグナ・カルタの現物である。羊皮紙に手書されたそれは、いまでも容易に判断できる鮮明さを保っている。この他、当時流布されたいく種類かのマグナ・カルタもガラス・ケースに収められてあった。それにしても、ヨーロッパ博物館や図書館でいつも感心させられることの一つは、利用者本位の展示システムである。秘蔵品が、蔵の奥深く人目にかぬところに秘かにしまわれるのではなく、それらがガラス一枚を隔てただけで顔をくっつけるようにして、子細に観察できるように工夫されており、しかも常設されている。大英博物館のロゼッタ石のごときは、ケースもなにもなく、あまり勧められたことではないが手で触れようと思えば、それも可能ということだ。フランス・ルーブル博物館のミロのヴィーナスでも事情

は同じである。文化・芸術が、一部専門家のためではなく、広く大衆に公開されていることの一端ともいえようか。

マグナ・カルタ自体の解説と邦訳は、手頃なものとしては、『人権宣言集』（岩波文庫）に所収された田中英雄氏のものがあるのでそれを参照されたい。なお詳しくは、田中英雄著『羅和対約マグナ・カルタ』（京都女子大出版部）を参照のこと。

2 聖書断片（グーテンベルグ博物館）

グーテンベルグ博物館については、すでに本誌第2号の拙稿『グーテンベルグ博物館（マインツ）を訪ねて』で紹介したので、それを参照にしていだきたい。

展示の断片と、同博物館で直接見た1452年のグーテンベルグの印刷による現物とは、その色鮮やかさの点でもほとんど違わない、とだけつけ加えておくことにする。なお、同博物館紹介と印刷術の発達について述べたパンフレットは、短大図書館に所蔵されており、当時の活字やグーテンベルグ印刷機のスライドも筆者が所蔵しているので、興味ある方はお申し出下さい。

3 フランス人権宣言

Déclaration des droits de l'homme & du citoyen（人および公民の権利宣言）は、周知のとおりフランス大革命の指導原理を闡明したものであり、その後、世界の政治的解放諸運動で果たした役割と意義ははかりしれない。フランス人たちは、現代でもこの宣言を非常に誇りにしており、現行の第五共和制憲法でも同宣言をその基本的な構成部分として組みこんでいる。展示のコピーは、フランス全国書籍展での即売会で手に入れたものである。厚手の手漉き洋紙に印刷されたそれは、1789年の公布当時の形式というわけではないが、普通の家庭で飾ったり、ちょっとした贈り物用に作られたものである。国民議会や上院を見学した際にも、違った形式のコピーがおみやげ用に販売されていた。

『人権宣言』はパンフレットにしても広く流布されている。さほどに彼らは『人権宣言』に愛着を抱いているようだ。また彼らほど、『人権宣言』やフランス大革命を含めて、何かという自国の歴史をひき合いに出す民族は他にいないのではないかとも思われる。ただし、彼らは自分の都合のいいことだけに言及するきらいがないこともないが、ミッテラン大統領が、フランスによるアルジェリア侵略の歴史を高等学校の教科書から抹殺したのはその好例の一つである。

『フランス人権宣言』自体の解説と邦訳は、山本桂一氏が前掲の『人権宣言集』でなされているので、それに譲ることとする。

4 LE CRI DU PEUPLE（『人民の叫び』断片）

『人民の叫び』1871年3月29日号。編集長はJules Vallés。

同紙は1871年2月22日、日刊の政治新聞として発刊され、コミューン最後の血の1週間の開始直後の5月23日、第83号をもってその幕を閉じた。同紙は、パリ・コミューン期で最も有名な新聞の一つで、官報を除く4紙 La Commune, Le Mot d'ordre, Le père Duchêne, Le Vengeur と肩を並べた。編集長のJ. バレスはブルードン派に属し、コミューンでは少数派で、多数派の提唱による公安委員会設置には反対した。

展示の同紙の日付は3月29日、つまりパリ・コミューン宣言の3月28日の翌日であり、コミューン議会当選者の名を伝えている。バレス自身は第15区で2位当選を果している。Blanqui は第18区、第20区の両区から選出されて人気の高いことを示しているが、この時彼はヴェルサイユ軍に捕えられて、コミューンにはいない。

展示の断片は資料的価値としては、特筆すべきことは何もないが、これが当時、銃をもって闘った同じ人の手で回覧されたものだという事だけで、筆者にとっては何か貴重な

ものように思われるのである。セーヌ河畔名物の古本屋台をひやかして回っているうち、これを見つけた時、古書店で堀出し物を見つけた際に特有のあのわくわくする気持をおさえきれなかったことが、思い出されるのである。(1982. 10. 27)

いま読んでいる本

S・キルケゴール著、飯島宗享訳『死にいたる病』(教文館、キリスト教古典叢書、1982年9月10日刊)

山田全紀(法経科助教授)

キルケゴールがアンティ・クリマクスの仮名で、「建徳と覚醒のためのキリスト教的、心理学的論述」との副題をつけて、1849年にコペンハーゲンで世に出した『死にいたる病』は、わが国でもこれまですでに数種の訳書が出版されているという事実だけからでも容易に推して知ることができるとおり、また、キルケゴール自身が生前にすでに自分の著作に関して予想していたとおり、実に広く世界の人々にその名を知られ、それが読まれるべき人たちによってよく読まれていて、まさに「古典」あるいは「名著」の一つに数え上げられるにふさわしい一冊なのであるが、ほかならぬその本のこの訳書を手にして、いま私はその本を初めて読む気になって読んでいる、あるいは、既存の訳書のいくつかに頼ってその本を読んだ気になっていたが実は正しく読んではいなかったことをこの翻訳によって思い知らされながら少しずつ読んでいるのであって、それというのも、——念のためお断りしておくがこの一文は長々しい文体の試みである——今回のこの翻訳は、訳者自身がなんと「三十年近い前」に出した創元文庫の一冊の改訳版となっており、その改訳もたんなる語句上の訂正にとどまるものではなくて、訳者の語る

になるであろうと待望された榊田啓三郎氏による本書の訳書」(筑摩書房、キルケゴール全集第24巻、1963年)を特別に意識したうえでの改訳であり、その榊田訳に対しては、「解釈上の違いは根がふかく、しかもこの書物の場合にはいちばん問題になる〈自己〉概念をめぐるものもあるだけに、そしてそれについて親しく語り合う場では解釈の違いがないように見受けられるのに文章ではそうならないことであるだけに、たいそう気になることであった」と言われるように、そのようにまことに長い年月をふりかえっての述懐があるほどの改訳なのであるから、私としては、私は実はほかならぬその二人の偉大な、それぞれに人間としても偉大な学者から、幸いにも直接に指導を受ける機会に恵まれた者であって、いま私の手もとにあるデンマーク語辞典は、飯島先生から賜ったもので、賜ったあとで知ってみれば、それは何と榊田先生が飯島先生に贈られたものであったのだから、だから、そういう自分自身であることを知った私としては、どうしても今回のこの翻訳をそのように読まずにはいられないからなのである——もしありうることならば、いつの日にか、「この訳書が榊田氏の訳書に絶大なものを負うものであり、その下敷なしにはありえないものであることを記して、その恩恵に謝意を表し、それにもかかわらず若干の異を唱えるのを非礼ととらず、真剣に御訳書に学んだ者の返礼と受けとってくださるようお願いする」という「訳者のあとがき」の言葉を、こんどは私自身が同様のかたちで飯島宗享先生に献上できる日のあることを、私の歩む道のはるかな目標として、ひそかにかかげながら……。

(1982. 11. 30)

私 と 本

村田温子(家政科専任講師)

本との出会いから現在までを、記憶をもとに

辿ってみようと思います。

幼児時代……かすかに思い出すのが黒く墨で塗られた本です。飛行機や戦車などが塗られていた様な気がします。内容については、当時字も読めなかったのでしょう。全く記憶にありません。他は、父の本箱の昆虫図鑑2冊です。同じような蝶やとんぼが何頁にもあるので捕った虫と比べるのに苦労したのを思い出します。

私に買ってもらった本は1冊だけ『うさぎとかめ』の本で何度も何度も読み返しているうちにすっかり暗記してしまい、絵を見て得意顔で弟に読み聞かせ？をしたものです。

小学生時代……田舎の学校で図書室もなく、読書？と言えば毎月届けられる小学館発行の小学〇年生だけだった様な気がします。それが、4年生の時、各学級に50冊ぐらいずつ小説を購入して頂きました。今の学級文庫でしょうか。最初に出会った小説です。早速1冊ずつ借りて読みました。何故か思い出すのは少女小説ばかりで、題名と登場人物は変わるが、裕福な家のいじわるな少女と貧しいが心の優しい少女との関わりを描いたもので、貧しい少女は、裕福な少女にいじめられてもくじけず頑張り最後にはいじわるな少女が心を入れ替えるというもので涙を拭いながら読みました。

中学時代……伝記ばかりを読んでいた様に思います。ナイチンゲール、ヘレンケラー等々偉大な人の人生から何か一つでも得るものがあればと読みました。

高校時代……学校には立派な図書館があったけれど全く読書とは無関係になりました。夏休みに単行本1冊読むのが精一杯だったような気がします。もっと図書館を利用したらよかったと悔やんでいます。

大学時代……文学全集、単行本、現代小説等等、手当たり次第読んだのがこの時代です。特に印象の深いのが『風と共に去りぬ』で、読んだ後、映画を観、又読み返しました。レットバトラーとアシュレに見る性格に何か将来の夢を描いていたように思います。

現代……文学的な読み物とは全く縁がなくな

り実用書一点張りです。家事、育児書など今の生活に結びついたものばかりで、一喜一憂しています。(最も喜の方は少ないのですが……)

振り返ってみると、一番本を読んだのが大学時代です。今後は、じっくり噛みしめてもう一度文学に浸れる日が来てほしいと思っています。

図書館 あ・ら・か・る・と

(その2) 公立短期大学

に望ましい予算の

すがた

(以下は、公立短期大学図書館協議会が、昭和53年(1978年)に作成した『公立短期大学図書館改善要項』第5章予算の項の全文である)

1 予算の編成

予算の編成にあたっては、図書館として必要な経費を図書館運営費(予算項目の節に相当)として独立して要求し、図書館長が全学的予算編成会議に参加し、図書館職員の専門的立場からの意見が十分に反映できるよう配慮されることが望ましい。

2 図書館運営費

図書館運営費は、短期大学の規模・設置学科・教科過程・教授方法・将来計画など、その短期大学の独自性を考慮して、適正に組まなければならない。

この図書館運営費の短期大学総経常経費(正規職員の給与等人件費は含まない)に占める比率を一概に規定することは困難であるが、10%以上が望ましい。また、文科系短期大学にあっては図書館資料による学習・研究に負うところが大きいので、そのための配慮がなされなければならない。

予算上の費目としては、次のものがある。

- 賃 金
- 旅 費
- 需 要 費（消耗品費・食糧費・印刷製
本費・修繕料）
- 役 務 費（通信運搬費）
- 委 託 料
- 備品購入費
- 負担金補助及び交付金

3 経 費

図書館運営に要する固有の費用を経費の面からみると、

- 資料購入費（図書・逐次刊行物）
- 資料の修理・製本のための製本費
- 図書館報・目録など出版物の印刷費
- 図書整理に要する整理用品費
- 書架等図書館備品補充更新のための備品
購入費

などがある。

- その他、一般的なものとして、
- 一般事務用品のための消耗品費
- 各種学会・団体の負担金
- 交換資料郵送のための通信費
- 臨時的業務のための賃金
- 施設・設備・備品の保守・修理のための
修繕費
- 各種会議のための経費
- 職員の研修および関連機関との連絡調整
に要する旅費

などがあり、これら一般的な経費は、本来、図書館運営費に組み込まれるものであるが、移行的措置として、各短期大学の事情に応じて適宜、大学全体の予算の中に組み込まれていけばよい。

(1) 図書購入費

学術研究の進歩発展に伴い、図書は常に補充しなければならない。また、価値の多様化や要求の複雑化・専門化に対応し得るような配慮がなされなければならない。そのためには、少なくとも次章で述べる年間増加冊数を維持できるだけの予算が組まれ

なければならない。

(2) 逐次刊行物購入費

逐次刊行物は、その論文数・カレント性・叙述の現代性において、優れた図書館資料であるので、十分な予算的配慮がなされなければならない。

また、設置学科の種類によって購入する逐次刊行物の種類数と経費は相当異なるので、資料費全体に占める図書費との割合は慎重に決めなければならない。

(3) 備品購入費

図書の増加に伴う書架・カードケースの補充をはじめ、図書館機能を円滑に遂行するため、備品類の補充更新にも配慮がなされなければならない。

4 変更時における予算的配慮

学科増設時は当然であるが、教科課程の変更・増大や定員の増加など、短期大学の教育施策の変更に際し、増改築を含むそれにふさわしい配慮がなされなければならない。

新規受入図書案内

総 記(000)

はだしのゲンはピカドンを忘れない

中沢 啓治

広島・長崎でなにが起ったか

飯島 宗一

行革一臨調答申をどう読むか

伊東 光晴

思潮（復刻版）1917年5月—1919年1月

阿部 次郎 他

Grand Dictionnaire Encyclopedique Larousse
2

昭和56年版 三重県勢要覧

三重県

バナナと日本人

鶴見 良行

朝鮮人女工のうた

金 賢汀

朝日新聞縮刷版 1982・7—9

学術雑誌 総合目録1982年補遺版 欧文編

ものいわぬ農民

大牟羅 良

漢字の過去と未来

藤堂 明保

文化人類学への招待

山口 昌男

軍縮の政治学 坂本 義和
 現代史の幕あけ 河野 健二
 情熱の行方 堀田 善衛
 出版年鑑 1983 出版ニュース社
 人間年輪学入門 宮城 音弥
 日本旧石器時代 芹沢 長介
 星の古記録 斉藤 国治
 動物園の獣医さん 川崎 泉
 ピープス氏の秘められた日記 白田 昭
 時事年鑑 1983 時事通信社

哲学・宗教(100)

認知心理学講座 3 推論と理解 佐伯 胖 編
 認知心理学講座 4 学習と発達 波多野 諒余夫 編
 ルソー全集 第7巻 ルソー
 食欲ありますか 中田 輝夫

歴史(200)

空母赤城飛行長増田正吾遺稿集 赤坂 誠
 増田 正吾
 ブルーガイドブック 127 佐渡・越後路 中俣 正義
 みえの新風土記 ふるさと紀行 三重県
 日本の国土 渡辺 京二 他

社会科学(300)

講座 今日の日本文本主義 1-10
 講座 今日の日本文本主義編集委員会
 現代資本主義と財政金融 2 地方財政 大内 力 編
 現代資本主義と財政金融 3 現代金融 大内 力 編
 現代財政学体系 1 現代財政学 林 栄夫 他編
 現代財政学体系 3 現代地方財政と地方自治 林 栄夫 他編

現代財政学体系 4 現代国際財政論 林 栄夫 他編
 ひとりで学べる原価計算入門 城戸 宏之
 ひとりで学べる会計入門 城戸 宏之
 ひとりで学べる簿記入門 城戸 宏之
 ひとりで学べる決算書入門 城戸 宏之
 簿記の第一歩(1) 勘定科目の解説と仕訳例 八田 吉次 他
 簿記の第一歩(2) 帳簿の解説と記入例 八田 吉次 他
 簿記の第一歩(3) 決算の解説と具体例 八田 吉次

わかりやすい工業簿記 滝川 祐治
 わかりやすい会計入門 滝川 祐治
 わかりやすい管理会計入門 滝川 祐治
 わかりやすい原価計算 根本 光明
 わかりやすい簿記入門(改訂版) 滝川 祐治
 現代会計学基礎講座 1 会計総論 横浜市立大学会計学研究室 編
 現代会計学基礎講座 2 簿記論 横浜市立大学会計学研究室 編
 現代会計学基礎講座 3 財務諸表論 横浜市立大学会計学研究室 編
 現代会計学基礎講座 4 監査論 横浜市立大学会計学研究室 編
 現代会計学基礎講座 5 原価計算論 横浜市立大学会計学研究室 編
 現代会計学基礎講座 6 管理会計論 横浜市立大学会計学研究室 編

原価計算工業簿記教科書 沼田 嘉穂
 会計教科書(九訂版) 沼田 嘉穂
 財務会計論 飯野 利夫
 簿記教科書 沼田 嘉穂
 簿記詳論 安平 昭二
 簿記要論 安平 昭二
 入門工業簿記 園芳 正巳
 入門会計学(新訂版) 滝川 祐治 他
 入門商業簿記(三訂版) 神納金之助
 演習講座 簿記1、II、III 嵐村 剛雄
 有斐閣新書 金の知識 松村善太郎 他
 有斐閣新書 地方自治法の論点

- サミュエルソン経済学体系 8 アメリカの経済政策
 有斐閣新書 日本経済史
 日本国家思想史研究
 現代教育批判
 現代教育の課題
 現代教育の思想と構造
 講座現代資本主義国家 1-4
 経済体制論 1巻
 経済体制論 II巻
 経済体制論 IV巻
 ポスト・ケインズ派経済学入門1 政治経済学の再構築
 ポスト・ケインズ派経済学入門2 ポスト・ケインズ派経済学入門
 ポスト・ケインズ派経済学入門3 貨幣的経済理論
 ポスト・ケインズ派経済学入門4 ケムブリジ資本論争
 Collected Economic Papers Vol I-V
 Collected Economic Papers General Index
 現代日本の教育思想
 Statistical Methods of Econometrics(1970)
 開かれている大学—大学通信教育— 昭和57年度
 文部統計要覧(昭和57年版)
 社会調査
 社会調査法
 新商業教育総論—商業と経営—
 原色日本服飾史
 現代日本の教育政策
 日本法思想史研究
 食の文化シンポジウム '80
 食の文化シンポジウム '81
 近代日本食物史
- 小高 剛 他
 アメリカの経済政策
 篠原三代平 他編
 逆井 孝仁 他
 長尾 龍一
 斎藤 喜博
 唐沢富太郎
 堀尾 輝久
 岩田 昌征 編
 村上 泰亮 他編
 岩田 昌征 編
 政治経済学
 J. A. クリーゲル
 ポスト・ケインズ派経済学入門
 A. S. アイクナー 編
 貨幣的経済理論
 P. デヴィッドソン
 ケムブリジ
 J. Robinson
 J. Robinson
 堀尾 輝久
 E. Malinvaud
 昭和57年度
 私立大学通信教育協会 編
 文部省
 福武 直
 福武 直 他編
 戸田 正志
 井筒 雅風
 森田 俊男
 長尾 龍一
 人間・たべもの
 石毛 直道 他
 東アジアの食の文化
 石毛 直道 他
 昭和女子大学食物学研究室
- 経済体制論 第三巻
 日本の条件 6-7
 家計調査年報 昭和55年
 昭和56年度版家計消費の動向
 経済企画庁調査局編
 有斐閣新書 家出の心理
 昭和57年版 経済白書
 河上肇全集 6・12
 Programs in Aid of the Poor for the 1980s
 Sar. A. Levitan
 フランス女性の歴史 4 目覚める女たち
 アラン・ドウコー
 資本論草稿集 7
 International Labour Conventions and Recommendations 1919-1981 I. L. O
 十二単から現代のきものへ
 各国憲法論
 財政統計 昭和57年度
 大蔵省主計局調査課 編
 食物誌
 計量経済学序説(下)
 英米法叢書 アメリカ独占禁止法
 衣服の民族誌 比較服装史序説
 現代刑法講座 第四巻 刑法各論の諸問題
 刑事法研究 第2巻-1 犯罪論の諸問題(上)
 刑事法研究 第2巻-II 犯罪論の諸問題(下)
 刑事法研究 第3巻 捜査と人権
 刑事法研究 第4巻 訴因と証拠
 刑事法研究 第5巻 裁判と上訴
 刑事法研究 第6巻 犯罪者処遇法の諸問題
 教育心理学
 Employment Protection
 Dix & Crumpon Contracts of Employment
- 堀野谷祐一 編
 N H K
 総理府統計局
 経済企画庁調査局編
 市岡 典三 他
 経済企画庁 編
 河上 肇
 マルクス
 I. L. O
 中路 信義
 宮本 忠 他
 石毛 直道 他
 H・タイル
 松下 満雄
 井上 泰男
 中山 研一 他編
 平野 龍一
 平野 龍一
 平野 龍一
 平野 龍一
 平野 龍一
 平野 龍一
 平野 龍一
 森 重敏
 S. D. Anderman
 D. W. Crump

Selwyn's Law of Employment

Norman M. Selwyn

会計諸則集 税務経理協会
実践財務諸表論(改訂増補版) 青木 脩
青木 脩 他
会社の税務と経理 出口 敏正
企業会計講話 狩野 勇
すぐに役立つ経理税務届出手続き全書

日本実業出版社

現代管理会計論〔改訂版〕 吉田 弥雄
手形法、小切手法概論 村川 澄
有価証券法概論(上) 村川 澄
税務会計入門一十三訂版一 長谷川 忠一
文部省認定 社会通信教育 企業会計講座 基
礎コース 第6単元 管理会計と財務分析
古川 栄一 他
NOMA 社会通信教育 ビジネス文書実務コー
ス 3単元 ビジネス文書の作り方

担当講師 坂井 尚

新版 会計法規集 中央経済社 編
昭和57年版 中小企業白書 中小企業庁 編
決算会計の理論と実務 長谷川 忠一
五訂 近代税務会計論 長谷川 忠一
税務会計要論 中田 信正
アメリカ経済史の基本問題 鈴木 圭介
現代日本の企業集団 二木 雄策
アメリカ帝国主義史論 楊井 克己
労働と独占資本 H. ブレイヴアマン

アメリカ経済論 菰淵 正晃
アメリカ独占資本主義 鈴木 圭介
アメリカ労働市場論 石原 孝一
戦後アメリカ ドルのたどった道 梶原 正男
《現代資本主義シリーズ》スタグフレーション

H. J. シャーマン

戦後米国における生産性の趨勢 1948-
1969

アメリカ経済史 鈴木 圭介
危機の中のアメリカ経済 菰淵 正晃
相互依存の世界における米国の国際経済政策
国際貿易投資政策委員会報告

竹内書店出版部 監訳

ソーシャル・ユニオンイズムの必然 デトロイト

秋元 樹
黄色い悪魔 アンドレイ・アニーキン
現代ヨーロッパ経済論 清水 嘉治
アメリカ金融資本の成立 石崎 昭彦
アメリカ経済史 スチュアート・ブルシェイ
現代資本主義叢書3 アメリカ資本主義の経済
と財政
教育の経済学 F. マハループ
アメリカ資本主義の発展 津田 隆
ドルの歴史 牧野 純夫
アメリカの繁栄は終わった!

P. スウィージー 他

京料理の歴史 村井 康彦 編
日本型食生活の歴史 安達 巖
日本人の食物誌 近藤 弘
先例 強制執行法 II(総則 II)

大野 文雄 他

先例 強制執行法 III(有体動産全)
大野 文雄 他
小六法 昭和五十八年版 平野 龍一 他編
改訂 消費者保護論(第四版)

日本衣料管理協会刊行委員会 編

全国学校総覧 昭和56年版
岩波基本六法 井戸田 侃 他編

自然科学(400)

疲労 斉藤 良夫
叢書・脳を考える 手と脳 久保田 競
井尻正二選集 3・7 井尻 正二
有斐閣新書 育児ノイローゼ

佐々木 保行他

食塩 足立 己幸 他
化学反応と電子の軌道 福井 謙一
食料、栄養、健康 1982年版

食糧栄養調査会 編

食品衛生管理読本、基礎編 高橋 泰二
日本食品標準成分表の改訂に関する調査資料
資源調査会 編
化学 II 一人間社会とのかかわり

Charles Compton

医学領域における生化学実験検査指針
名古屋保健衛生大学 学長 藤田啓介 監修編集
界面活性剤の分析と試験法 北原 文雄 他編
細菌の科学 太田 次郎
食品中の食品添加物分析法
厚生省環境衛生局食品化学課 編

工学及び家政学(500)

ニット総合事典 伊藤英三郎
ファッション・ディテールI カラー&ネック
編 チャネラ・ファッション予測編集部
ファッション・ディテールII スリーブ&ポケ
ット編 チャネラ・ファッション予測編集部
82年版衣料関係JIS 特集版3-1、2、3
どう変わる? 食生活と加工食品 田崎 龍一
成熟社会の食生活—加工食品の消費動向調査報
告— 財食品産業センター
図説・日本の食品工業 石田 朗 他編
近畿支部研究会記録(2) 調理と操作 武庫川女子大学家政学部内 調理科学研究会
近畿支部 編
昭和55年度版 食品産業総合統計年報 財食品産業センター 編
婦人衣服の設計 増田 茅子
昭和56年 繊維統計年報 通商産業大臣官房
調査統計部 編
10年間の料理の変化 河野 友美
美しいキモノ 別冊4 きものの着こなし事典 篠原 洋一 編
美しいキモノ 別冊6 羽織とコートのしきた
り 篠原 洋一 編
編んでみよう! 真田 武夫 編
みんなの刺しゅう図案集1 真田 武夫 編
繊維試験の基礎と実務 遠藤 捨雄
日本と東南アジア 宮本 忠
公書法の国際的展開 加藤 一郎 編
新・中国料理 相川 方
新・日本料理 高橋 博

日米欧=自動車パワー 山崎 清
魚調理ハンドブック 成瀬 宇平 他
被服構成学実習書 日本衣料管理協会刊行委員会 編
新しい家庭生活を考える 日本家政学会家庭経営学部会 関東地区
横山 光子 他監修
新版 家政学原論 家庭経営 横山 光子 他

産 業(600)

国内海上輸送のガイドブック 内航海運
日本内航海運組合連合会
国内貨物輸送の主役 トラック輸送産業の現状
と課題 財全日本トラック協会
図説 農業白書 1981 農林統計協会
産業界シリーズⅡ 315 繊維業界 平井 東幸 他
病める食糧超大国アメリカ マーク・クレマー
二十一世紀への提言 食糧のゆくえ 宮川 東一 編著
食品シリーズ(5) 生活者と食品 版山又一郎 編著
食品シリーズ(3) 食品の物流 田中 信哉 編著
食料の経済学 中山 誠記 他
食料の経済分析 唯晃 康彦

芸 術(700)

現代の体育・スポーツ科学 体力の発達 松浦 義行
スポーツマンの医学入門 L・プロコフ
日本の美術 196 飛鳥・奈良建築 鈴木 嘉吉 編
日本の美術 197 平安建築 工藤 圭章 編
家庭のできる体力テスト 戸村 敏雄 他
日本染織文献総覧 後藤 捷一
日本の手絞り 竹田 耕三

語 学 (800)

日本経済新聞社 編

新外来語辞典 新星出版社 編集部
心理言語学 J. A. フォーダー 他

東京 新宿 紀伊国屋書店

文 学 (900)

決定版 カフカ全集 1-12 フランツ・カフカ
老舎小説全集 4巻 日下 恒夫 他訳
老舎小説全集 8巻 磯田 孝昭 訳
服装から見た源氏物語 近藤 富枝

- 1位 独創力の秘密 中松 義郎
- 2位 裸の王様ニッポン 吉田 忠雄
- 3位 オカムラのO.A戦略 岡村製作所 編
- 4位 少女期 沢田 聖子
- 5位 哀愁の町に霧が降るのだ・下 推名 誠
- 6位 気くばりのすすめ 鈴木 健二
- 7位 地球どこまでも不思議旅 推名 誠
- 8位 桂木文写真集・ひとりぼっちのコンチエルト 渡辺 達生
- 9位 男は20代に何をなすべきか 鈴木 健二
- 10位 羊をめぐる冒険 村上 春樹

ベスト・セラーズ

名古屋 ちくま正文館

- 1位 気くばりのすすめ 鈴木 健二
- 2位 裏声で歌へ君が代 丸谷 才一
- 3位 源氏物語論 吉本 隆明
- 4位 実録・自民党戦国史 伊藤 昌哉
- 5位 東と西の語る日本の歴史 網野 善彦
- 6位 ピープス氏の秘められた日記 白田 昭
- 7位 輪廻する葦 桐山 靖雄
- 8位 装いよ、わが魂よ 高橋たか子
- 9位 本の枕草紙 井上ひさし
- 10位 帝王 F. フォーサイス

大阪 旭屋書店

- 1位 気くばりのすすめ 鈴木 健二
- 2位 私の履歴書 庭野 日敬
- 3位 続・旧約聖書の大預言 宇野 正美
- 4位 こころの診察室 清島 啓次
- 5位 ピープス氏の秘められた日記 白田 昭
- 6位 エントロピーの法則 J. リフキン
- 7位 裸の王様ニッポン 吉田 忠雄
- 8位 桂木文写真集・ひとりぼっちのコンチエルト 渡辺 達生
- 9位 自分学のすすめ 鈴木 健二
- 10位 90分解説・改正商法50のポイント

編 集 後 記

- 1 本誌中の岩本先生稿「展示品解説」は、先生がパリ留学中に購入され、持ち帰えられた貴重資料のうち、わが図書館が拝借して、9月初めから窓口上に展示している4点についての解説である。この解説を一読され、図書館の帯出、返却の際、いま一度頭上の展示資料に眼をむけ、とくとごらんいただきたい。
- 2 最近貸出期限をまもらない学生が目立ちます。返却日には、かならず図書館を返却してください。
- 3 コピーの使用については図書館所蔵の資料以外には行ないませんので注意してください。